

ダニエル書 - 第二百二十六号

預言の物語を解き明かす：ダニエル書第11章と現代の出来事の研究

Jeff Pippenger

2024-03-09

ダニエル書11章40節は、地の獣のプロテスタントの角の歴史を、地の獣の共和政の角の歴史と結びつけている。両方の角はいずれも1798年に始まり、その証しは、間もなく米国で制定される日曜法に至るまで続く。神は両方の角に、それぞれの角を試すための二つの文書を与えられた。欽定訳聖書（旧約と新約）は地の獣の宗教的な角を試すものであり、アメリカ独立宣言とアメリカ合衆国憲法は地の獣の政治的な角を試すものであった。40節は地の獣の歴史であり、その歴史的な証しは1776年に始まり、1798年には聖書預言における第六の王国としての役割を果たし始める。

イエスは常に、初めによって終わりを示す。そしてアメリカ合衆国の終わりは、その始まりの歴史の中に表されている。アメリカ合衆国の終末期は、ダニエル書11章2節に表されており、そこではロナルド・レーガンから始まる6人の大統領が示されている。レーガンは、地の獣の預言的歴史の最後の期間における最初の大統領である。その期間は1989年の終わりの時に始まった。しかし、2節が扱っているのは、レーガン、ブッシュ（父）、クリントン、ブッシュ（子）、オバマ、トランプだけである。間もなく到来する日曜法に至る歴史を補完するには、他のラインが必要である。1989年から間もなく到来する日曜法までが、ダニエル書11章2節における特定のラインである。

1798年は、聖書の預言における第六の王国としての地の獣の預言的歴史の始まりを示し、日曜法はその終わりを示す。そして1798年がその始まりを画する。1776年に始まる220年間は、地の獣に関する別の預言的な線であり、1776年に始まり、1989年に封印が解かれた知識からのメッセージが1996年に体系化されたときに終結する期間を示している。その220年の期間はアメリカの将来を示しており、その始めに1776年に公表された、ヨーロッパの王たちの統治とカトリックの教権からの独立が、やがて来る日曜法において取り去られることを示す。1776年から1989年は、地の獣の預言的歴史における特定の線である。

508年から538年までの三十年は、538年に聖書の預言における第五の王国として教皇権が確立されることに先立つ、預言的な期間を表している。アメリカ合衆国は、間近に迫る日曜法において、獣の像を完全に造り上げる。538年に教皇権が確立されるための三十年間の準備期間は、教皇権という獣の像の一つの要素である。1798年に、地から上ってくる獣が聖書の預言における第六の王国として王座に就いたときに至るまでにも、準備の期間があった。1776年から1798年までの期間は、508年から538年までの期間と対応している。

イエスは、物事の終わりをその始まりによって例えて示す。したがって、1776年から1798年に至る歴史において示されている予言的期間は、508年から538年の予言的期間によって証しされており、この二つが二人の証人となる。これら二つの期間は、聖書預言における王国の即位に先立って特定の予言的期間が存在するという事実に対する二人の証人となっている。これらは合わせて、1989年の終わりの時から日曜法に至る期間が、538年と1

798年に先行した二つの期間と符合していることを立証する。

1989年の「終わりの時」から、ダニエル書11章41節の「日曜法」に至るまでの預言的歴史は、508年から538年までの30年間によって予表されており、また、1776年から1798年までの22年間によっても予表されていた。

ダニエル書11章2節は、この預言的時期における歴代大統領のうち最も裕福なトランプが登場するとき、彼が「奮い立たせる」、すなわち「目覚めさせる」ことによって、当時、世界の構造をエリートが労働ドローンを支配する二層制へとリセットしようとしているグローバリストの意図を、全世界に知らしめると述べている。彼らの言う「グレート・リセット」の最優先事項は中産階級を排除することであり、それによって、マリー・アントワネットのような歴史上の人物に代表されるエリートが、彼女の繊細なパンを生み出した下層民から隔絶され、保護されるようにするのだ。

グローバリストの宗教はニューエイジ・スピリチュアリズムであり、彼らのウォーク主義やダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの哲学は、腐敗したクリティカル・レース・セオリーのイデオロギーと結びつき、いわゆる偽りの科学たる地球温暖化と、ジェノサイド的な人口管理という秘密裏の取り組みをも伴っていたことは、トランプが歴史の舞台に登場し、ギリシアの国に敵対するようにすべてを「扇動する」ために現れたとき、すぐに明らかになった。

2016年のトランプの登場は、偽りの覚醒（扇動）の到来を告げるものであり、それはサタンが仕組んだ、マタイ25章の乙女たちの目覚めを前もって挫くための偽物である。世界の舞台であれ米国内であれ、グローバリストは預言的には竜として表される。彼らは十人の王、世界の銀行家、世界的な億万長者の商人、フリーメーソンやその他の秘密結社である。

グローバリストの「竜」の勢力とは、神の御言葉における法的な議論の中でしばしば描かれるサタンと同様に、“ロー・フェア”（法律による戦争）を得意とする者たちである。神が、敬虔に生きる者には常に迫害が伴うことを忠実な者たちに前もって告げられたとき、彼は彼らが証言をするためにその国の法廷へ連れて行かれると約束した。サタンは、トランプ主義によってかき乱されたその地で現在横行している腐敗した判事や腐敗した司法長官の象徴であり、そうした腐敗した裁判所や法曹は、革命と無政府状態を推進し生み出す諸組織を常に支援している。革命と無政府状態は、歴史を通じてサタンの主要な象徴である。

ソビエト連邦は竜の預言的象徴であった。というのも、ほかにも多くあるが、とりわけファラオの無神論が竜の主要な特性だからである。四十節にある「南の王」は、ヘブライ語の「ネゲブ」（エジプトを意味し、その節では「南」と訳されている）の王を指す。ファラオは、1798年の「終わりの時」に南の王であったフランスの無神論の聖書的象徴であり、また1989年の「終わりの時」におけるソビエト連邦の象徴でもある。両者はいずれも竜の権力であり、いずれも異教ローマという竜の王国に由来する。

アメリカ合衆国は背教的プロテスタンティズムの終末時代における象徴であり、教皇制は、背教的プロテスタンティズムとソビエト連邦の竜との間の闘争を操って、地上の王

座に復帰する過程で打ち破る三つの障害のうち第一を克服した。次の障害は背教的プロテスタンティズムそのものであり、間もなく到来する日曜法において教皇制はそれを征服する。

トランプ大統領の強さと権勢は、グローバリズムの危険性への目覚めの契機となり、それはエスカレートして、竜と背教したプロテスタントとの世界的な闘争へと発展した。教皇制は、同じ二つの勢力である竜と背教したプロテスタントの間の闘争を利用して、第一の地理的障壁を打ち倒したときと同様に、第二の地理的障壁を打ち倒すための環境を作り出している。そこに、（竜の力である）国際連合という第七の王国が、間もなく到来する日曜法のもとで、いかに速やかに自らの王国を獣に明け渡すのかという論理がある。それは、1989年以来、敗北した敵であり続けてきたからである。

一面では、教皇庁が1989年にソビエト連邦という「竜」を打ち倒すために用いたのと同じ闘いである。しかし、現在の進歩派のウォーク主義と背教的プロテスタンティズムのMAGA主義との闘いは、竜を倒すためではなく、背教的プロテスタンティズムを打ち負かすことを狙っている。この戦いは本質的には2016年に始まり、そして2020年には、聖書で「偽りの父」とされる竜が選挙を盗み、その結果、トランプと共和党のMAGA運動を政治的に「殺した」。黙示録第11章では、底知れぬ淵からの獣、すなわち無神論の獣が二人の証人を殺し、彼らは再び命を得るまで通りに放置された。ウィリアム・ミラーの規則は、預言的な象徴には複数の適用があることを示している。

今、地の獣をその結末へと導く、竜と背教的プロテスタンティズムとの闘争を考察している中で、その二人の証人とは地の獣の二本の角である。共和主義の角は2020年に、聖書が語る「偽りの父」を父とする勢力によって打ち倒された。私たちはこの現在の歴史において、その闘争のまさに核心にいる。ダニエル書11章41節では、間もなく来る日曜法が施行され、啓示によれば、そのサタンの働きを成し遂げるのは背教的プロテスタンティズムである。

「米国のプロテスタントは、隔たりを越えて手を差し伸べ、心霊主義の手を握ることにおいて先頭に立つだろう。彼らは深淵を越えて手を伸ばし、ローマの権力と手を結ぶだろう。そしてこの三者連合の影響のもとで、この国は良心の自由を踏みじめる点でローマの跡を追うことになる。」『大論争』588。

人間の出来事の複雑な相互作用は、2016年に始まった闘争において表れている。その闘争に関わる諸勢力を正しく評価するためには、世界をハルマゲドンへと導く三つの勢力のそれぞれが何を意味しているのかを明確にすることが重要である。なぜなら、彼らはそれぞれ固有の預言的特徴を持っているからだ。『ヨハネの黙示録』では、竜、次いで獣、さらに偽預言者という順序が常に保たれているので、まず竜の預言的特徴を、次に獣を、そして最後に背教的プロテスタンティズムの偽預言者を特定していくことにする。

進歩派の民主党員は、アメリカ合衆国の背教したプロテスタントではない。彼らは、預言上、グローバリズムと竜を代表する存在である。間もなく来る日曜法の前に、預言的な筋書きを成就するため、共和党は政権に復帰しなければならない。ファラオ（竜の力の象徴）と、キリストの時代における異教ローマの竜の力は、終わりの日には竜の力が、モーセの時代とキリストの時代に起こったように、乳児殺害を推し進める力であることを示

す二つの証しとなっている。

終わりの日々は、モーセと小羊の歌を歌う十四万四千人の時であり、モーセと小羊の歴史においては、竜の権勢が幼子を殺そうとした。それは、主が解放者モーセと贖い主キリストを起こされようとしていることをサタンが知っていたからである。終わりの日には、竜は自分の時が短いのを知って大いなる憤りをもって地に下ってくる。そして、十四万四千人の一員となる候補者たちを滅ぼそうとして、幼子の殺害を推進するのは竜の権勢である。進歩主義的でグローバリズム的、社会主義的な民主党は、間もなく到来する日曜法において生じる三重の同盟を成立させるうえで「先頭に立つ者」ではない。というのも、民主党は偽預言者ではなく、竜の権勢だからである。

「神の律法に反して教皇制度の確立を強制する布告によって、わたしたちの国は義と完全に縁を切ることになる。プロテスタント主義が深い隔たりを越えてローマの権勢の手を取ろうと手を差し伸べ、さらに深淵を越えて心霊主義と手を結び、この三重の連合の影響のもとに、わが国がプロテスタントかつ共和政の政府としての憲法のあらゆる原則を否認し、教皇的な虚偽と惑わしの流布のための規定を設けるとき、わたしたちは、サタンの驚異的な働きがなされる時が来ており、終わりが近いことを知るのである。」『証言』第5巻、451頁。

世界をハルマゲドンへと導く三つの勢力それぞれの預言的特質は、神の言葉の中に明確に示されている。竜の勢力は、神がモーセとキリストによって型として示された民を起こそうとしておられる時に、乳児殺害を助長する法律を推進する。リベラル派の民主党は、間もなく米国で制定される日曜法の後には世界の舞台で起こる同様の闘争に先立ち、それを型として示す米国内の闘争において、竜の勢力である。竜は偽りの父であり、リベラルで進歩主義的なグローバリストは嘘をつくことで有名である。

なぜあなたがたは、わたしの語ることを理解できないのか。それは、あなたがたがわたしの言葉を聞くことができないからだ。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔に属しており、父の欲望を行おうとする。彼は初めから人殺しで、彼のうちには真理がないので、真理のうちにとどまらない。彼が偽りを語る時は、自分から語っている。彼は偽り者であり、偽りの父だからである。ヨハネの福音書 8:43、44。

悪魔、すなわちサタンであり竜である者は、人殺し（中絶）であり、初めから偽り者であった。詭弁を弄するユダヤ人たちがピラトと論争したとき、彼らはカエサル以外に王はないと大胆に宣言した。そしてカエサルは異教のローマの象徴であり、それは竜の勢力である。

このように、竜は第一義的にはサタンを表しているが、第二義的には異教ローマの象徴である。『大争闘』439頁。

グローバリストが現代のユダヤ人をそれほど憎んでいるのに、現代のユダヤ人がリベラルなグローバリストであるのはなぜかと不思議に思う人もいる。それは、彼らが異教のローマの王を自分たちの唯一の王として選んだからである。ヘブライ民族の多くがどれほど知性的であろうとも、古代に王としてのメシアを拒むという選択をしたことが、彼らを竜の陣営に縛り付けてしまったのだ。

しかし、彼らは叫んだ。「彼を連れ去れ、連れ去れ。十字架につける。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を、私が十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「私たちにカイズルのほかに王はありません。」ヨハネ 19:15

教皇権のために迫害を実行したのはヨーロッパの王たちであり、小羊と戦うことになっているのは『ヨハネの黙示録』17章の十人の王たちで、彼らは彼に従う者たちを殺すことによってそれを行う。

彼らは小羊と戦うが、小羊は彼らに打ち勝つ。彼は主の主、王の王であり、彼と共にいる者たちは召され、選ばれ、忠実だからである。黙示録 17:14

竜の勢力の預言的な特質は、異教ローマの歴史における十字架やコロッセウムに象徴されているとおり、彼らが幼児や終末時代のキリスト教徒を「自ら手を下して」殺害する者であることを示している。暗黒時代に異端審問を用いて教皇ローマのために大虐殺を遂行したのは、竜の王たちであった。彼らは赤ん坊を殺す者であり、極めつけの嘘つきでもある。アドルフ・ヒトラーは、大量殺人者として、また嘘つきとしての現代の象徴である。ヒトラーは社会民主主義者だった。

進歩的リベラル派は、一般にナチ党として知られる国家社会主義ドイツ労働者党の指導者であったアドルフ・ヒトラーの足跡をたどっている。彼の指導の下、ナチ党は全体主義体制を敷き、ホロコーストを含む数々の残虐行為の責任を負った。ヒトラーの党は、極端な民族主義、人種差別、反ユダヤ主義、権威主義としばしば関連づけられている。第二次世界大戦中のナチス・ドイツで宣伝相を務めたヨーゼフ・ゲッベルスは、「十分に大きな嘘をつき、それを繰り返し続ければ、人々はやがてそれを信じるようになる」と述べた。

近年、進歩的リベラル派の民主黨員が広めているありがちな嘘は、現代の共和党の保守右派こそが、ヒトラー時代のナチスに典型づけられる存在だというものだ。彼らの虚偽の歴史叙述は、ヒトラーの党を当時の極右政党と正しく位置づけてはいるが、ヒトラーが極右とされたのは、初期の政治闘争において左翼の敵であった共産主義者との相対においてだけだという事実は、いつも伏せられる。米国の政治スペクトラムにおいて共和党が民主党より右に位置するのは確かだが、ヒトラーのナチス・ドイツのその他のあらゆる特徴は、民主党のありようを予言するかのような性質を体現している。

聖書は、人はその実によって見分けられるのであって、政治スペクトル上で右か左かという尺度によってではないと述べています。ヒトラーの時代に見られた超国家主義は、MAGA運動の愛国心を特徴づけるものではありません。ヒトラーの超国家主義は、彼が優越人種を掲げたことに特徴づけられており、アメリカ合衆国、そして世界に二層の階級制度を築こうとするグローバリストの取り組みをも示しています。もちろんグローバリストは、その制度において自分たちを最上層に位置づけており、ヒトラーの優越人種がそれを象徴しています。

嘘をつき、投影し、非難するという術は竜の特徴であり、その技法の典型は、自分が実際に支持し、自ら行っている行為や立場を他人に押しつけて非難することである。これはアメリカでも、そして今日の世界でも日常茶飯事であり、またそれは悪魔の属性でもあ

る. というのも、彼は「兄弟たちを訴える者」だからだ.

また、その大いなる竜、すなわち悪魔と呼ばれ、サタンとも呼ばれる、あの古い蛇で、全世界を惑わす者は投げ落とされた. 彼は地に投げ落とされ、彼の天使たちも彼とともに投げ落とされた. そして私は、天で大きな声がこう言うのを聞いた. 「今や、救いと力、私たちの神の御国、そしてそのキリストの權威が来た. 私たちの兄弟たちを、私たちの神の御前で昼も夜も訴えていた告発者が投げ落とされたからである.」黙示録12章9、10節

現代の進歩的グローバリストの予言的な相似形とも言えるヒトラーのドイツは、目的を持ったプロパガンダ装置を備えていたが、同じことは今日の進歩的リベラルにも当てはまる. そして、ナチス・ドイツの宣伝相ヨーゼフ・ゲッベルスが指摘した「大嘘の反復」はまさにそこで、地球上のさまざまな情報伝達の経路を通じて、コンピュータ化されたアルゴリズムの数学的な精度で今日も繰り返されている. (CNN、MSNBC、BBC、NPR、Google、Facebook などなど)

国会議事堂放火事件は、第二次世界大戦へと至るドイツの歴史における重要な出来事だった. それは、世界統一政府の樹立を目指す進歩的リベラルなグローバリストが用いる嘘の典型例を示している. 1933年2月27日の夜、ドイツ議会が置かれていたベルリンの国会議事堂（2020年1月6日の米国連邦議会議事堂に相当する建物）に放火されたときに起きた.

その火災は放火によるものとされ、アドルフ・ヒトラーとヘルマン・ゲーリングの指導下にあったナチス政権が、国会議事堂放火事件に関する大統領令を押し進めるための口実となった. この大統領令は、ドイツ大統領パウル・フォン・ヒンデンブルクの署名により、市民的自由を停止し、政治的反对者の逮捕・拘禁を可能にした. これは、ナチス権力の確立とドイツにおける民主的諸制度の侵食に向けた重要な一歩となった.

その火事は、ほとんどの誠実な歴史家がヒトラーの手先による放火だったと認めているもので、2020年1月6日の出来事を、そして、憲法に定められた原則のもとで完全に許されたこと以外は何もしていなかった人々の憲法上の権利がその後踏みにじられたことを、象徴していた. とりわけ、進歩的リベラルが称賛し支持するブラック・ライフ・マターズやアンティファの運動がもたらした無政府状態と破壊と比べれば、なおさらである. 1月6日は竜の産物であり、それはヒトラーのドイツのナチスによって典型づけられていた.

アメリカの社会主義的な民主党員たちは、トランプをヒトラーの象徴と繰り返し見なししている. というのも、彼らが拠って立つ原則は、十分に大きな嘘をつき、それを自分たちのメディアのプロパガンダ機構を通じて絶えず繰り返せば、マリー・アントワネットの小作人たちはいずれそれを信じる、というものだからだ.

次回の記事でこの研究を続けます.

結集せよ、民よ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう. 耳を傾けよ、遠い国々のすべてよ. 帯を締めよ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう. 帯を締めよ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう. 共に謀をめぐらせよ、しかしそれは無に帰する. 言葉を発せよ

、しかしそれは成り立たない。神が我らと共におられるからだ。
主は力ある御手をもって私にこう語り、この民の道を歩むなと私を戒めて言われた。
この民が「陰謀だ」と言う者どもに向かって、あなたがたは「陰謀だ」と言うな。彼
らが恐れるものを恐れるな、おののくな。万軍の主ご自身を聖とせよ。彼こそあなた
がたの恐れとし、あなたがたのおののきとせよ。彼は聖所となる。しかし、イスラエ
ルの両の家にはつまずきの石、つまずかせる岩となり、エルサレムの住民には罾と網
となる。そのうち多くの者がつまずき、倒れ、砕かれ、罾にかかり、捕えられる。
証しをとどめ、律法を私の弟子たちのうちに封印せよ。イザヤ書 8:9-16